

令和8年度 北海道消防操法訓練大会に 出場しました！



■消防操法訓練大会とは

消防操法訓練大会は、消防技術の向上と団員同士の連携強化を目的とした競技会です。各消防団が日々の訓練の成果を発揮し、正確さとスピード、隊員同士の連携を競います。

種目は「小型ポンプ操法」。水の汲み上げからホースの延長、放水による標的への的の中まで、消火活動に必要な一連の動作を行い、迅速性や正確性を競います。

1チーム5人で、指揮者、1～3番員、補助員がそれぞれの役割を担当します。5人が息を合わせ、正確に動くことが重要です。

指揮者、1～3番員、補助員の役割は？

指揮者	1番員	2番員	3番員	補助員	サブメンバー	サブメンバー
山口 浩司	齋藤 充哉	岡戸 瞭佑	皆月 英夫	山田 直樹	金山 竜司	辻 裕哉
						

指揮者：号令により隊全体を指揮し、筒先を持って火点へ放水する

1番員：ホースを延長し、「放水はじめ」の伝令後筒先を受取り放水する

2番員：吸管を水槽に投入し、とび口（破壊器具）により火点付近で破壊姿勢をとる

3番員：吸管を延長後、ポンプへの吸水を行い、「放水はじめ」の伝令で送水する

補助員：吸管を保持し、放水に必要な水源を管理する



■仕事を終えてから毎日訓練

大会に向け、団員はそれぞれの仕事を終えた後に集まり、動きの確認や通し訓練を繰り返しました。

番員によって動きが異なるため、まずは一人ひとりが自分の動きを確認。個々の動きが整った状態で5人による通し訓練を行い、全体の動きを合わせながらタイムの短縮を目指しました。

■「速さ」だけではない細かな動き

タイムを縮めるため、特に力を入れたのがホースをまっすぐ伸ばすことです。無駄な動きをなくし、素早く次の動作に移れるよう、繰り返し練習しました。

また、給水ホースを水槽に入れる際には、音を立てないことにも注意しました。音が鳴ると減点につながるため、速さだけでなく、一つひとつの動作を正確に行うことも求められます。「速さ」と「正確さ」の両方を意識しながら、5人の動きを一つにするための訓練が続きました。

■訓練の成果を大会で発揮

大会では、操法を51秒で終え、総合79点を獲得しました。惜しくも入賞は逃しましたが、仕事を終えてから毎日積み重ねてきた訓練の成果を発揮し、5人で力を合わせて最後まで全力で競技に臨みました。

これまでの訓練は、大会で成果を発揮するだけでなく、いざというときの迅速な消火活動につながり、地域の安全を守る力となっています。

